

# 信越化学工業株式会社

## 2020年3月期 第3四半期 決算説明電話会議要旨

日時	2020年1月28日(火) 16:00 - 17:00
開催場所	信越化学工業(株)
会社側出席者	・代表取締役 社長 齊藤 恭彦 ・専務取締役 半導体事業担当 轟 正彦 ・取締役 経理部長 笠原 俊幸 ・広報部長 足立 幸仁
参考資料	<a href="#">2020年3月期 第3四半期決算短信</a> *従来、決算短信と説明資料を作成していましたが、統合して決算短信一本にしています。

\* このメモは電話会議でお話しした内容をまとめたものです。

### 【決算概要説明 (社長 齊藤恭彦)】

- 当第3四半期(9か月累計)の連結売上高は11,740億円(前年同期比2.7%減)、営業利益は3,187億円(同1.8%減)、経常利益は3,302億円(同ほぼ横ばい)、純利益は2,468億円(同1.9%増)
- 当第3四半期(10-12月)の連結売上高は3,874億円(前年同期比6.7%減)、営業利益は1,082億円(同6.2%減)、経常利益は1,120億円で横ばい、純利益は818億円(同1.8%減)  
営業利益のYoY(10-12月比)の差異の主な要因は、塩ビ・化成品における販売価格の軟化と、半導体シリコンの200mm以下の売上減少。
- ROIC(年換算)は20.4%で、20%台を維持。ROE(年換算)も13.1%と、13%台を維持。
- 今期通期の業績予想および配当予想は、7月発表の予想を据え置き。(利益)予想に対する進捗率は79%。予想の達成に向けて、計画の実行に鋭意取り組む。  
(今期通期の連結売上高は1兆5,500億円、営業利益は4,050億円、経常利益は4,180億円、当期純利益は3,140億円、年間配当金は、前期より20円増配の1株当たり220円を予想。)

### 【各セグメント概要説明 (広報部長 足立幸仁)】

- 塩ビ・化成品事業  
【売上高 3,728億円(前年同期比7%減)、営業利益 772億円(同15%減)】  
- 塩化ビニル、苛性ソーダともに市況の影響を受けたが、米国、欧州、日本の3拠点とも出荷は堅調。

➤ シリコン事業

【売上高 1,721 億円（前年同期比 1%減）、営業利益 470 億円（同 3%増）】

- 汎用製品は価格下落の影響を受けたが、機能製品を中心に拡販に努めた。

➤ 機能性化学品事業

【売上高 874 億円（前年同期比 5%減）、営業利益 213 億円（同 2%増）】

- セルロースは、医薬向けは底堅く推移したが、建材向けが一部地域で振るわなかった。
- フェロモンは堅調な出荷。

➤ 半導体シリコン事業

【売上高 2,958 億円（前年同期比 4%増）、営業利益 1,121 億円（同 8%増）】

- 半導体デバイス市場の調整局面のなか、価格と出荷水準の維持に努めた。

➤ 電子・機能材料事業

【売上高 1,679 億円（前年同期比 3%減）、営業利益 514 億円（同 2%減）】

- 希土類磁石は、産業機器向けが需要鈍化の影響を受けたが、環境自動車向けを中心に堅調な出荷を維持。
- フォトレジストは、ArF レジスト、EUV レジストなど総じて好調に推移。
- マスクブランクスは、先端品を中心に伸ばし好調。
- 光ファイバー用プリフォームは、市況悪化の影響を受け、厳しい状況。

➤ 加工・商事・技術サービス事業

【売上高 778 億円（前年同期比 6%減）、営業利益 110 億円（同 5%増）】

- 信越ポリマー社の半導体ウエハー関連容器が、半導体関連市場の投資減速の影響を受けた。

[決算および予想の補足説明]

- 第3四半期累計の設備投資は1,791 億円（前年同期比 153 億円増）。塩ビ・化成品はシンテックの塩ビの増設が主体で602 億円（同 104 億円増）、電子機能材料は328 億円（同 65 億円増）。減価償却は、970 億円（同 2 億円減）で、塩ビ・化成品、シリコンが増加したが、半導体シリコンが減少。
- 今期（年間）の設備投資額は2,700 億円、減価償却は1,400 億円の見込み（それぞれ、10月の修正後変更なし）。
- 期中の平均為替レートは、海外子会社の決算期での1-9月の平均がUS\$で109円20銭（1年前に対して円高）、国内会社の決算期での4-12月の平均は108円70銭（1年

前に対して円高)。

- 今期業績予想の前提となる為替レートは、1月以降 1US\$ =108 円、1€=122 円。
- 経常利益の為替感応度は、US\$で 27 億円 (国内会社の輸出入で 18 億円、海外子会社の換算で 9 億円)、€で 3 億円。

## 【質疑応答】

### 〈塩ビ・化成品〉

Q	塩ビと苛性ソーダの足元の市況について
A	<p>〈塩ビ〉</p> <p>米国のみならず、世界的に市況は好転しています。北米では、既に1月は3セントの値上げが通りました。続けて2月も、3セントの値上げに取り組んでいます。アメリカからの輸出においても、値上げに鋭意取り組んで、実際に値段が上がってきています。</p> <p>〈苛性ソーダ〉</p> <p>底値にはなっていますが、そこからなかなか反転してこない状況が続いていて、反転させるべく取り組んでいます。</p>
Q	シンテックの4Q (10-12月) の状況について
A	<ul style="list-style-type: none"><li>・塩ビの10-12月の米国内の需要は、全般的に見て決して悪くありませんでした。通常冬場は、冬枯れの傾向が見られますが、12月の実績を見ると、秋需の9月、10月の水準でした。それだけ米国の需要は戻ってきて、元気になってきたことが見て取れます。そういうこともあり、1月に値上げが通りました。逆に言うと、この10-12月の市況は弱含みでしたが、値段を下げる必要は全くありませんでした。シンテックは「相場は相場に聞け」という格言に従って販売活動をしていますが、相場に耳を傾けないか相場に音痴な人たちの影響により、この10-12月の値段は下がりました。</li><li>・10-12月はレイジアナ工場の定期修理を行いましたので、7-9月と比べて利益は落ちています。前年同期と比べても(上記に述べた)値段の事情で利益は落ちています。</li><li>・新しい年度において、値段の修正をすべく取り組んでいます。</li></ul>
Q	シンテックのエチレンプラントの稼働状況について
A	<p>前回の電話会議で昨年末までにけりをつけるとお話ししましたが、不本意ながらまだそこに至っていません。今まさにスタートアップの状況で、2月の第1週にクラッキングを始める見込みです。</p>

## 〈シリコーン〉

Q	前四半期比 減収増益の理由について
A	機能性商品を拡販したことによる、製品構成の変化が主因です。
Q	用途別の状況について
A	パーソナルケアの分野は、先進国に加え、新興国でも伸びています。自動車関連では、環境対応の車により多く使われています。より多くの品物をそろえて、拡販を続けていきます。

## 〈半導体シリコン〉

Q	3Q（10－12月）の市場の状況と4Q（1－3月）の見通しについて
A	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 3Q（10－12月）の市場状況は、2Q（7－9月）に対しどの口径もマイナス成長となっています。2018年の10－12月期から昨年の10－12月期までQoQで見ますとマイナス成長が続いています。</li><li>・ 4Q（1－3月）の見通しですが、口径別に少し違う動きをしてきています。300mmは、メモリ向けはまだ低調な状態が継続すると思いますが、ロジック向けEPWが昨年後半から回復しています。このEPWが300mmの市場を下支えする状況で、10－12月期と比べて大きな落ち込みにはならないと見ています。200mmは、不需求期入りしていることに加え、デバイスメーカーの在庫が重いこともあり、1－3月期はやや低調な動きになると思います。150mm以下の小口径は、1－3月期は10－12月期に比べ微減ぐらいで推移すると見ています。</li></ul>
Q	2Qから3Qにかけての増益要因について
A	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 増益の要因は、①海外子会社との期ずれもあり販売数量が増えたこと、②償却費の減少、③為替が若干円安に振れたこと、などによります。</li></ul>
Q	長期契約、価格対応、在庫の水準について
A	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 300mmの長期契約価格に変化はありません。来年以降既契約分については、価格を調整することは無いと考えます。</li><li>・ 200mm、150mm以下の価格対応は、一部のシリコンメーカーの中に価格を下げて数量確保を行う動きも見られますが、当社は値下げはしておりません。</li><li>・ 300mmの在庫水準は、先端ロジック向けの10nm以下が非常に活況で、お</li></ul>

	<p>お客様のウエハー在庫水準もあまり高くないと考えています。一方、メモリはメーカー間で差がありますが、デバイスの出荷は、昨年の春先あたりから数量ベースでは上がってきています。ビットベースでも DRAM、NAND とともに伸びていることから、当初予定よりも早い回復を期待しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年の長期契約比率は、約9割と変わっておりません。2021年の長期契約は、市場の今後の展開にもよりますが、現段階では7割以上と見込んでいます。</li> </ul>
Q	能力増強について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高品質化対応は続けております。この1—3月期も、最先端のEPW需要が増えますが、逐次増産の段階ではありません。</li> <li>・当社の場合、ブラウンフィールドについては若干の余裕があります。また、2019年、2020年は想定より需要が少し落ちていきますので、業界全体で考えれば、すぐには大々的なグリーンフィールドでの増強にはならないと見ています。</li> </ul>

### 〈電子・機能材料〉

Q	電子・機能材料セグメントの3Qの動きについて
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年比で伸長したのは、レジスト、ブランクス、レア・アースマグネットです。光ファイバー用プリフォームは減益となりました。</li> <li>・レジストはEUV用を中心に先端製品が順調に伸びました。7—9月期に、日韓問題の影響で数量の前倒しがありました。後続の月で影響は出ていません。</li> <li>・レア・アースマグネットは、FAの回復が見られませんが、車載用で伸ばしました。</li> </ul>
Q	電子・機能材料セグメント主要製品の4Qの見方について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジスト、ブランクスについては期初から（見方は）変わっていません。</li> <li>・レア・アースマグネットについては、当社が力を入れ伸ばしてきた環境対応車にも影響（軟化の兆候）が出てきていますので、とにかくシェアを上げ、4Qを乗り切るべく努めてまいります。</li> <li>・プリフォームについては、4Qも乗り切るべく鋭意取り組んでいるところです。</li> <li>・このセグメントには合成石英やペリクルなどもあり、大型基板用の合成石英などをさらに伸ばしていきます。</li> </ul>

## 〈全 社〉

Q	建設仮勘定の残高について
A	<ul style="list-style-type: none"><li>・塩ビ・化成品で 2,000 数百億円、シリコーン、半導体シリコン、電子・機能材料が各々300 億円ぐらいです。残りが機能性化学品などです。</li><li>・2Q から 3Q にかけては、全体で 200 数十億円増えていますが、そのほとんどが塩ビ・化成品です。</li></ul>
Q	4Q の会社全体の見通しについて
A	4Q も残すところ 2 か月ですが、発表した予想を達成すべく取り組んでいます。
Q	4Q の減価償却費の見込みについて
A	<ul style="list-style-type: none"><li>・年間の予想は、端数を付けずに 1,400 億円の見込みとしていますが、20-30 億円ほど低くなると見えています。</li><li>・前四半期比では、シリコーン、半導体シリコン、電子機能材料などの減価償却費が増える見込みです。進めている投資の中で、稼働するものがあることが、要因の一つです。塩ビ・化成品は、エチレンプラントの稼働が始まっていないので、増えません。</li></ul>
Q	新製品（石英クロスや GaN）の収益寄与のタイミングについて
A	大変期待をしている商品で、力を入れていきます。現時点では、どれくらい貢献するかお答えできませんが、来期の収益に寄与するよう取り組んでいます。
Q	新型肺炎の影響について
A	どのような影響が出るかは、まだはっきりとはわかりません。医療関係の手袋や IV チューブなどに使われる当社の製品には動きがあると思います。また、中国の経済活動が一時的に鈍る影響がどういうところに出てくるか、状況を注視しています。